

コース 14 はちけんざん 八間山

リーダー CL M/K SL T/H

実施日 平成25年 6月 5日(水) 天候 晴れのち雷雨のち晴れ

参加者 19人 (男性 8 女性 11)

グレード B

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
秋葉区役所前		5:25	
下牧PA	7:40	7:45	休憩
富士見峠	9:45	10:00	例年にないマイカー量にビックリ
シラネアオイ群生地	10:10	10:30	散策
八間山山頂	11:50	12:00	雷雨 集合写真を撮り下山開始
イカ岩の肩下部	12:20	12:50	昼食
富士見峠	13:15	13:45	
水上SA	15:55	16:10	
秋葉区役所前	18:20		解散

山行等概要(幹事のコメント)

- 巳年の今年は雪消えが早く、花も早く、シラネアオイも終わりがけとの情報を得ていた。
- 夕方からは雷雨との心配があるとの予報だった。
- シラネアオイの群生地の散策を終え、山頂を目指して間もなく、北方の方角から黒い雲が出始める。
- イカ岩の肩を超えた頃から雷鳴が鳴り出す。雨も。
- 山頂の手前から少し雷雨が強まり出す。雨具を着け様子を見る。これ以上強くなるようなら直ちに下山する旨、全員に伝える。幸いなことにそれ以上にはならなかったため、とりあえず山頂を目指す。
- 山頂で集合写真を撮り終わった頃、再び雷雨強まり出す。直ぐに下山開始。下山途中には雹も降り出す。イカ岩の肩下部ガレ場で昼食をとる。
- 雷雨となったため、予定のコースを歩くことをやめ、安全第一を考慮し、下山することにした。
- 今回は初参加の人が多く、それなりにシラネアオイの群落は気に入っていただけたように思う。



「シラネアオイの八間山」

(1563) H/S

入会して2年目となった今年、クラブの山行第2回目は、野反湖脇のシラネアオイが群生する群馬県・八間山に参加した。

Kリーダーのもと18名は、花と展望に恵まれた素晴らしい稜線歩きを満喫することができた。

○ 圧倒されたシラネアオイ

野反湖畔の富士見峠から登山を開始すると、少し登ったところにシラネアオイの群落が咲き誇っていた。「地元の人たちにより育てられ、7万2千株の規模」と、往路の車中でリーダーが説明してくれと通りで、かつて体験した日光白根山・阿弥陀ヶ池脇斜面のそれとは格段の差があり、整然とした遊歩道などの管理を含めて『見事』の一言に尽きる。

足下の花にのみ気をとられていたが、少し顔を上げると林立するダテカンバにもまた格別の美しさを感じた。

○ 快適な稜線歩き

登山口の標高が1500mを超えていたこともあって、視界をさえぎる高い樹木は少なく、登山道の整備も行き届いており、快適な稜線歩きと素晴らしい展望の山旅を楽しむことができた。6月5日は水曜日でいわゆる平日。にもかかわらず家族連れやグループなど、結構、登山客は多い。これもこのコースの快適さがこれだけの人を集めるのだろうと納得し、休日の混雑が予想された。

○ 夏山気象との早めの遭遇

1934m頂上を目の前にして、前の同行女性が「あっ、光った」と、思わず声を上げた。カミナリである。夏山では午後になると、しばしば「雷、雹、冷雨」に見舞われることが多い。リーダーからも夕方にはその可能性もあるとの事前説明を受けていたが、小粒の雹に稲妻、遠雷と、時季外れの夏山の気象を早めに体験するところとなった。それにしても、大荒れすることなく、落ち着いて昼食をとることができたことは幸いであった。

○ リーダーの的確な判断

早目の雷の襲来は18名を引率するリーダーを悩ませるところとなったが、決断は早かった。本来は、「頂上から池の峠に下り、湖畔を歩いて出発地に戻る」計画であったが、「雷が収まらなければ登ったコースをそのまま引き返す」ことを全員に周知し、頂上の記念撮影を終えると直ぐに下山指示がなされた。結果として全員無事に下山し、厳しさの中にも楽しい山旅を終えることができた。

帰路の車中でKリーダーは、ご本人が主催する本コースの計画はこれが最後と話されたが、「来年も願います」との要望が強かった。計画コースへの期待もさることながら、リーダーの的確な判断・決断に対する安心感と期待感が大きいものと感じられた。

個人的には、過去に天候不順で中止した『白砂山』への計画を密かに期待していた。

